

アジャイル開発に共感できる点 できない点 ～ P 2 Mからの視点～

2016年5月31日

日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)

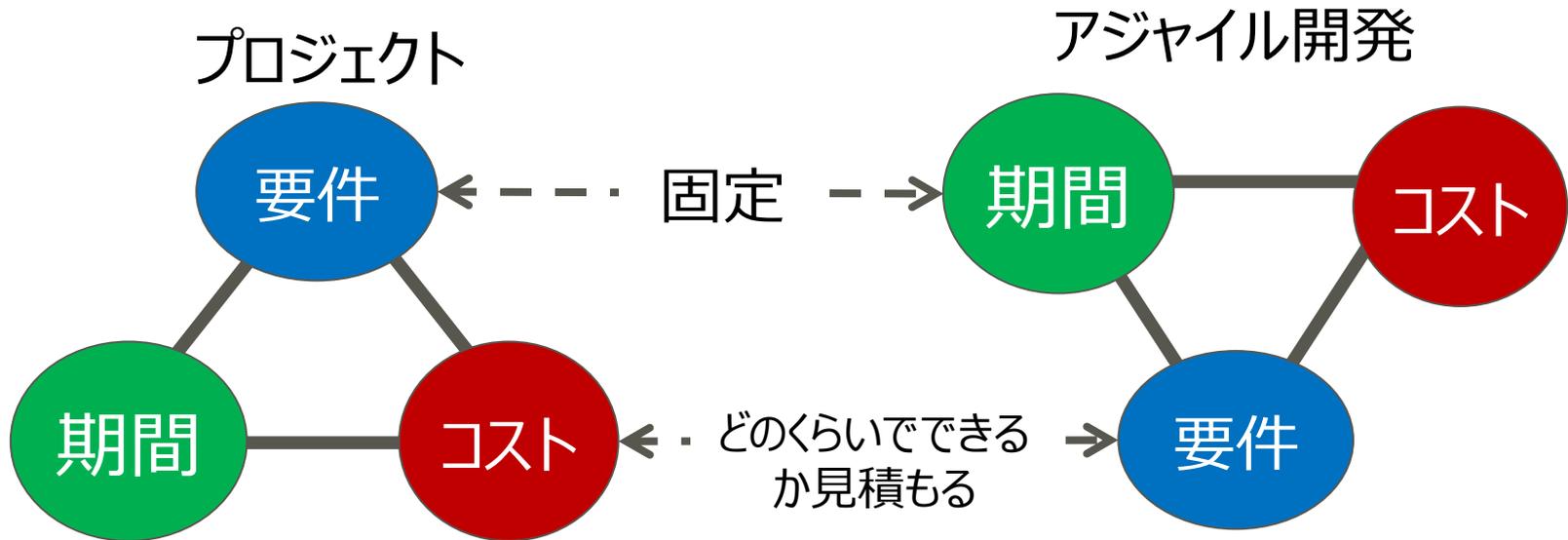
IT-SIG TPSに学ぶPM WG主査

小原 由紀夫, PMP, 米国ケイデンスマネジメント社認定講師

(株式会社 富士通アドバンストエンジニアリング)

アジャイル開発に共感できない点（共感し難い点）

アプローチが異なるため、共感できない（共感し難い）



繰り返しのない個別性と完了の期限を有する有期性を特徴とする活動である

マネジメントの公式な開始時点で達成すべき目標が、「契約書」、「使命記述書」などの形、具体的に確定している

～改訂3版 P 2 Mガイドブック 豆本より～

分析、設計、実装、テストを短い期間で並列に行い、それを繰り返す。顧客にとって価値の高い機能から開発し、短い間隔で動くソフトウェアを完成させる

～アジャイル開発とスクラムより～

アジャイル開発に共感できる点1

共に顧客にとって、または、事業の価値を焦点としている
アジャイル開発

顧客にとって価値の高い機能から開発し、短い間隔で動くソフトウェアを完成させる
～アジャイル開発とスクラムより～

P 2 M (Program & Project Management for Enterprise Innovation)

- ・外部環境変化を意識し複雑な課題への解決の道を開き、事業価値の向上をはかる
- ・プログラムに焦点を当て、組織のミッションや戦略から発するプログラムミッションを実現する価値創造事業と位置づけている。

プログラム： 組織戦略の実現などの目的達成のために複数のプロジェクトを有機的に組み合わせた統合的な活動である。

プロジェクト： 繰り返しのない個別性と完了の期限を有する有期性を特徴とする活動である

～改訂3版 P 2 M ガイドブック 豆本より～

アジャイル開発に共感できる点2

共に繰り返しにより、実現を推進する
アジャイル開発

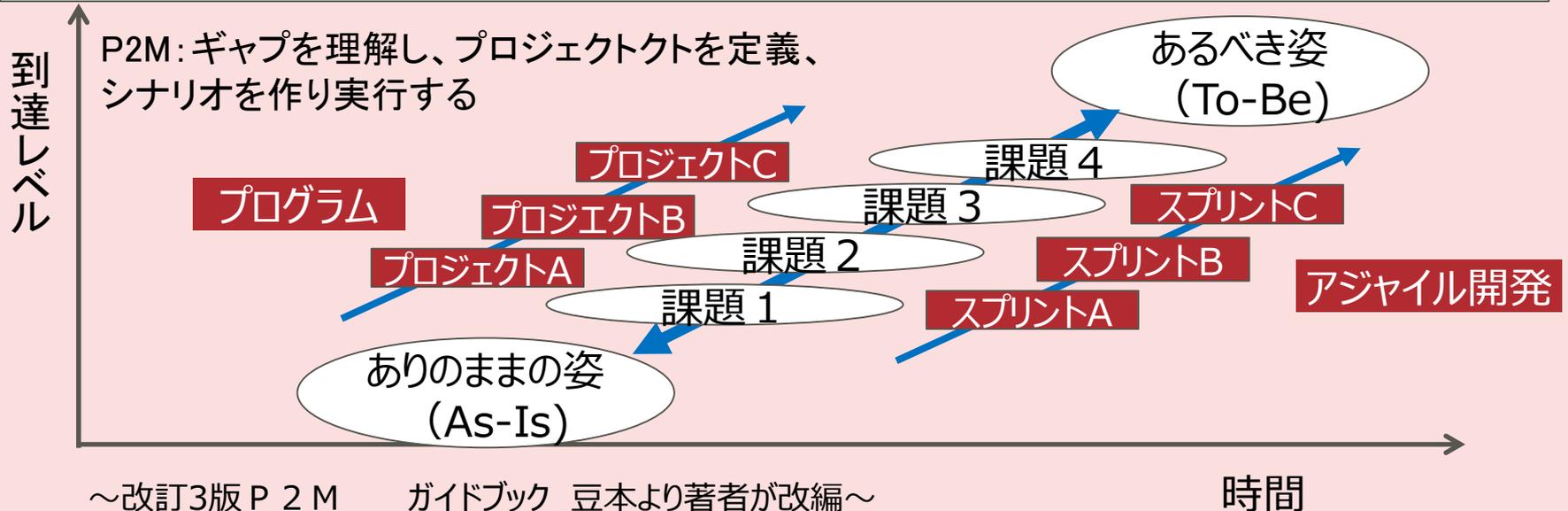
短い期間を短く区切って優先度の高い機能から実装することを
繰り返す。フィードバックを取り入れながら開発する

～アジャイル開発と
スクラムより～

P 2 M (Program & Project Management for Enterprise Innovation)

ミッションプロファイリング (プログラムによって価値を創造する中核のプロセス)

当初の抽象的・多義的なプログラムミッションの概念を環境の複雑性や組織制約条件等を踏まえつつ具現化して可視化していくプロセスである。

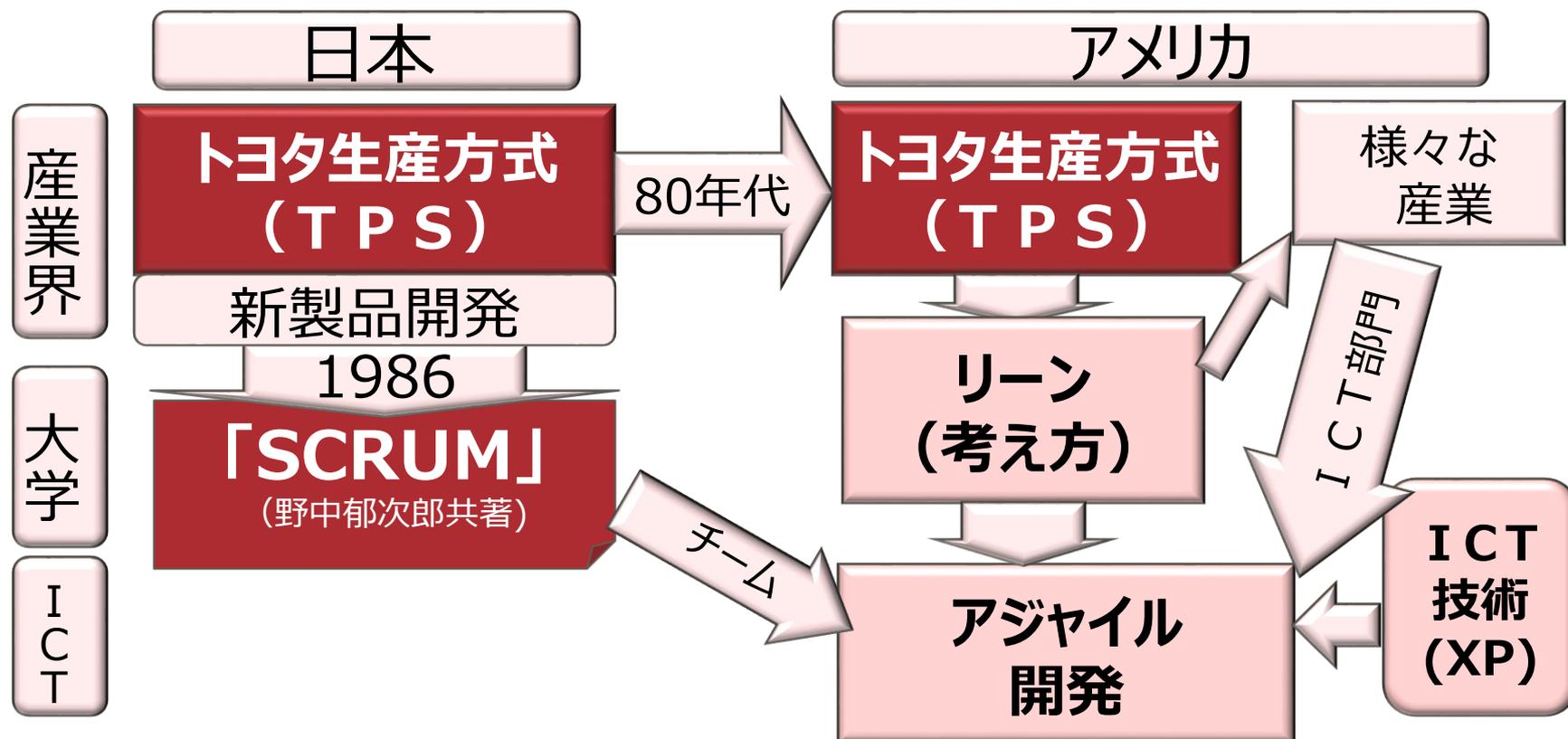


参考) トヨタ生産方式とアジャイル開発

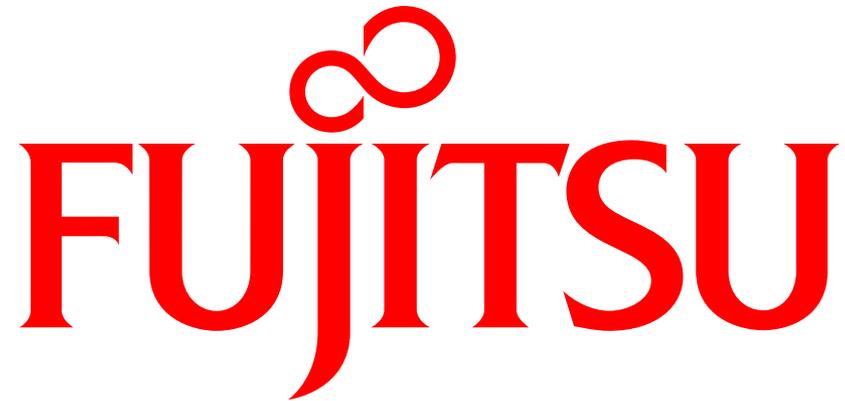
<アジャイル～日本生まれ、アメリカ育ち～>

「アジャイル開発とスクラム」平鍋健児・野中郁次郎共著 翔泳社より

アジャイルは、日本の1980年代の考え方とチームをベースとしてXPなどの最新IT技術と融合してアメリカで育った



グローバル(アメリカ)では、アジャイル／TPS(リーン)を経営ツールと捉えている



shaping tomorrow with you